

2025年度 ボストン・アカデミック・ツアー報告

2026年3月29日（日）ボストンへ出発した一行は、数々の現地教育機関を訪れ、教授や学生と触れ合い、自分自身を見つめ直し、学ぶことの意味を考えながらプログラムを終え、4月5日（日）に元気に帰国しました。ツアー行程については、別紙「全日程表」にてご確認ください。

生徒感想

私はボストンの学生たちののびのびした雰囲気の魅力を感じました。今回のアカデミックツアーでは、3大学を見学し、授業や校内の見学、それぞれの研究について話を聞きました。そこでどの学校の生徒も、興味あることをもっともっと学びたいという強い意欲から勉強していることが伝わってきました。そのため熱心に研究している事も楽しそうでした。また、ある学生から、ハーバードに行きたいと言うと笑われたが自分を信じ努力してきたという話を聞き、大きな刺激を受けました。どの生徒も学生生活も学業も楽しんでいる姿がとても素敵でした。私はまだ夢を探している途中ですが今回の経験を通して、小さな目標を見つけることができました。Y. K.

私は最初、一緒に行こうと言っていた友達がやめてしまいボストンに行くかとても迷いました。しかし研修を終えた今、本当に参加してよかったと思っています。私は小さい頃から海外に興味があったし、英語でコミュニケーションを取ることも好きだったので「せっかくのチャンスなんだし行ってみよう」と思い、参加することにしました。しかし、ボストンでの1週間はただの楽しかった思い出だけではなく、自分が今まで知らなかった世界への扉、見ず知らずの土地で誰かに助けを求めながら生き抜く力などになったと感じています。友達と遊んでいる時に感じるものとは違う、今まで味わったことのない類の「楽しさ」がずっと続いていて本当に充実した1週間でした。今まで興味を持たなかった分野でも、すごく引き込まれるような授業をしてもらえたり、質問をする機会をたくさん設けてもらえたりして、とても刺激的でした。私は総合型での受験も予定しているのですが、自分が大学で本気で学びたいことは何なのか、どんな大学生活にしたいのか、見つけ出さなければならないのに自分の中でもはっきりせず不安でいっぱいでした。でも、ボストンで沢山のハイレベルな学生と交流して、会話を重ねることで自分が望む進路が少し見えてきた気がしました。かけがえのない経験ができて本当に良かったです。ありがとうございました。M. M.

私はこの研修を通して世界中の人と交流することの大切さを学びました。当たり前のことかもしれないけれど日本にいと“日本の価値観“が自分の中での価値観になりやすいと思います。大学について言えば、日本は社会に出ていくにあたって自分のステータス、肩書きとして大学の“偏差値”に重点を置いている傾向が少なからずあると思います。そのため、志望大学を決める時に偏差値を重視する人が多いと思います。しかし、アメリカの訪れた3大学の方になぜその大学に入ったのかと聞くと、みなさん「この大学でしたい勉強があったから」と答えていました。私にはそれがすごく印象的で、アメリカの自由な勉強のあり方が垣間見えたように感じました。この一年間で進路をある程度決めていくことになりませんが、自分の学びたいことを学べる大学を探したいと思います。また、これからもたくさんの人と積極的に関わって多様な価値観、人生観に触れて今後の人生を豊かにしていきたいと思います。 R. S.

以下、現地で撮影した写真をご紹介します。

BU Academy 交流訪問





Harvard University 訪問







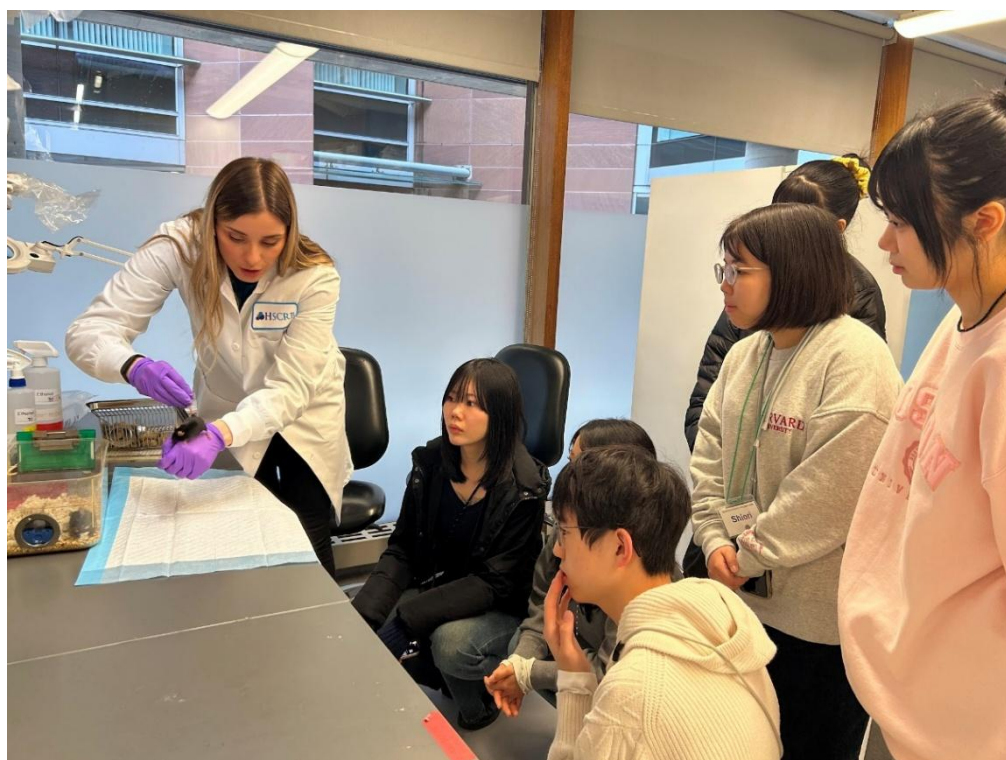
Harvard University Phillips Brooks House での研修



ハーバード学生（左）との文化交流



ハーバード幹細胞研究所訪問



MIT (Massachusetts Institute of Technology) 訪問





MIT 博士課程学生によるプライベートツアー

学生専用スタディールーム見学



プログラム修了証書授与

